

「時が磨き、土地が刻んだ記憶」

まるきた伝統空間 大宮

東日本 地方文化事業支援 紹介公演

「まるきた伝統空間」は、財団法人 東日本鉄道文化財団が支援する東日本各地の民俗芸能をご紹介します。平成13年11月より、JR東京駅丸の内北口(まるきた)ドームで開催されてきたため、この名で親しまれています。東京駅丸の内駅舎復原工事に伴い、現在は、大宮を新しい舞台として、貴重な民俗芸能に気軽に、楽しく触れあう機会をご紹介します。

土地の言葉で語る、素朴で不思議な世界。

「遠野の昔話」

【語り部：正部家ミヤ / 佐々木イセ / 菊池栄子 / 遠野市綾織小学校 児童】

遠野は北上山系に囲まれた盆地で、大昔は湖であったという伝説があります(遠野のトーはアイヌ語の湖の意)。近世には南部家一万石の城下町として栄え、人や物が行き交ったこの地で、神や妖怪、さまざまな伝承が語り伝えられてきました。その語りを遠野の人、佐々木喜善から聞き、書き綴ったのが柳田國男(1875～1962)著の『遠野物語』です。遠野の昔話は、この『遠野物語』によって、広く知られるようになりました。ザシキワラシ、カッパ、天狗、オシラサマ…。時には恐ろしく、時には人間にご利益をもたらす神々の話などが、今も、語り部たちのやわらかな方言で語り継がれています。

【正部家ミヤ】

大正12年(1923)綾織村(現遠野市綾織町)の農家に生まれる。日本全国を語り歩き、ラジオ、テレビを通して遠野の昔話を全国に広めた語り部鈴木サツ(1996没)の妹にあたり、遠野を代表する語り部の一人です。天性の明るさをもち、長編の話では、会話や心理描写が細やかになる点に特徴があります。平成9年(1997)には、天皇・皇后の前で昔話を披露しました。

演目と見どころ

遠野地方独特の方言で語られる昔話に、心の中のやさしいふるさとを思い浮かべながら、耳を傾けてください。語り部のほか、綾織小学校のかわいい語り部さんのお話もお楽しみいただけます。

<昔話>

ザシキワラシのはなし

子供の姿をした家の神さま「ザシキワラシ」がいる間、その家は栄え、いなくなると災いが起きるといふ不思議なお話です。

オシラサマ

遠野をはじめ、東北地方で信仰されている神様「オシラサマ」のいわれを描いた白い馬と娘の悲しいお話です。



おばこぶちのカッパ

おばこぶちという淵に、いたずら好きなカッパがいるという噂があり、ある時…。おなじみのカッパの伝説です。

マヨイガのはなし

遠野では、山の中にある不思議な家のことをマヨイガといい、神様が何かを授けようとしている人にだけ見えるものです。



強い風の吹く夜は..

遠野の小正月に現れるという、怖い雪女のお話です。

笛吹峠

遠野にある笛吹峠にまつわる悲しいお話です。昔、峠越えは困難なもので、人々が畏怖を抱いていたことが物語の背景にあります。

頭大きな男

大きな頭から柿の木が生えてくる、奇妙で可笑しなお話です。

豆腐とコンニャク

棚から落ちて怪我をした豆腐が、丈夫なコンニャクを羨みますが、コンニャクは毎日生きた心地がないといひます。

猿とカニの餅つき

なぜ猿の顔が赤いのか?その訳が、このお話でわかります。

びっきの上方見物

物見遊山に出かけたびっき(蛙)ですが、峠でなぜか引き返してしまいます。

————— どんどはれ(おしまい) —————



古雅と神秘が漂う山伏神楽。

ひらくからる

「平倉神楽」

【平倉神楽保存会】遠野市 上郷町

遠野の神楽は、ゆるやかなテンポの神人神楽と動きが速く躍動感のある山伏神楽の二系統で伝承されています。平倉神楽は上郷町平倉地区に伝承される山伏神楽で、明治34年(1901)頃、遠野市宮守町の塚沢神楽から伝わったものです。塚沢神楽は重要無形民俗文化財である岳神楽(早池峰神楽)の弟子神楽であり、平倉神楽は孫弟子にあたります。昭和63年に平倉神楽保存会が結成され、神楽の保存継承が行われています。

岳神楽

花巻市大迫町の岳地区に伝承される神楽で、昭和51年(1976)、大置神楽とともに早池峰神楽として重要無形民俗文化財に国指定されました。早池峰山を霊峰として仰いだ山伏修験が行った祈禱の舞がもとであるといわれていますが、伝承由来の記録は現存していません。しかし、起源を同じくするといわれる大置神楽には長享2年(1488)の神楽伝書があり、また、早池峰神社に文禄4年(1595)の銘の獅子頭が所蔵されており、その起源は南北朝時代にまで遡ると考えられています。

演目と見どころ

神楽幕の後ろは神霊台、舞台は神座を表しています。面をつけて舞う舞は「守り」といひ、舞手は神霊を表し、託宣や祈禱をします。舞は、二段構成で、前段と後段との間に「間語り」があり、後段の面をはずした華やかな舞「クスシ」は、神への感謝を表した、人間の喜びの舞であるといわれています。

式舞：三番叟 / 八幡舞 / 山の神舞 / 岩戸開舞

神楽を奉納する際、最初に必ず舞われるのが式舞です。6曲から成り、鶏舞、翁舞、三番叟、八幡舞、山の神舞、岩戸開舞の順で奉じられます。

裏舞：四人鶏舞

鶏舞の裏舞です。式舞には表舞、裏舞があり、神楽を昼夜奉納する際、昼は表舞を、夜には裏舞が奉じられます。

荒舞：笹除り舞

動きが速く、激しい舞です。神と小竹葉を手早に、罪穢れをはいひ清め、剣をとって悪神悪鬼を切り払います。

神舞：恵比寿舞 / 五穀舞

神を題材としている、文字通り神の舞です。五穀舞は、稲・麦・小豆・大豆・稗の五穀の成り立ちを語る舞で、恵比寿舞は、大漁、五穀豊稔の祈禱舞となっています。

女舞：天女舞

素戔嗚尊の娘、須勢理毘売が美しく舞う、女舞です。祇園祭りの前、神々が謡い、楽を奏し、天照大神を慰めるという筋立てです。

権現舞：祈禱権現舞

権現舞は、神楽の最後に必ず舞われる舞曲です。神様が獅子の姿を借りて現れ、あらゆる災いを退散、調伏させ、人々の安泰を祈禱します。

謡と民謡を同時に歌い上げる、岩手の秘謡。

すがぐちいわい

「氷口御祝」

【氷口御祝保存会】遠野市 小友町

氷口御祝は、遠野市小友町氷口地区に江戸時代末期から唄い継がれてきたとされる祝いの唄です。男衆の謡曲と女衆の民謡が同時に唄われるという、大変めずらしい歌唱方法を伝えています。結婚式や新築祝い、孫の誕生祝いなど、おめでたい行事に欠かすことのできない祝い唄であり、儀式唄でもあります。御祝は儀式のはじまりを告げるもので、本公演でも氷口御祝から、舞台は華やかに幕をあげます。

特色と見どころ

男衆が謡曲を唄い、その後から女衆が歌詞も旋律もまったく異なる民謡(萬鶴電節)を唄い上げ、最後は同時に唄い終えます。謡曲は、観世流から大正5年を境に徐々に高安流に変わり、現在は高安流が唄い継がれています。高安流は抑揚の少ないことが特徴で旧伊達藩の流れを汲むものです。御祝は、唄い手にとって、間合いの取り方や呼吸のあわせ方などに細やかな神経を使う、気の抜けない唄であるといひます。謡曲と民謡が融合する幻想的な響き、最後にびたりと同時に終わる不思議さ、迫力ある舞台をゆっくりとお楽しみください。

演目

「高砂」「四海波」「春栄」

この組み合わせは、結婚式祝い唄です。これらにあわせる民謡(萬鶴電節)は、それぞれの曲によって異なる入り方をします。

みやこ節

全員で手拍子をとりながら唄う、余興的な唄となっています。

DVD「伝統空間選集」【非売品】



財団法人 東日本鉄道文化財団では、「まるきた伝統空間」のほかにも、さまざまな伝承行事をDVDによる映像で広く皆様にお楽しみいただけるよう取り組んでいます。DVD「伝統空間選集」は、全国の公立図書館・博物館などの約600カ所に無償で頒布しています。現在、東日本地域を中心に、全国的に320カ所の施設でご利用、貸出・館内視聴などいただけます。

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 上三原田の歌舞伎舞台【群馬県】 | 信濃焼捨の棚田【長野県】 |
| 五所川原の立役武多【青森県】 | 馬山の山あげ【栃木県】 |
| 2009年 第4回日本伝統舞踊フェスティバル 観劇前編 演奏 | 金山の有屋音楽【山形県】 |
| 越後二十村郷 牛の角突き【新潟県】 | 下屋敷の相模人形芝居【神奈川県】 |
| 信濃大町の子供流鍋島【長野県】 | 鹿沼今宮神社祭の屋台行事【栃木県】 |

